

Operational Report FY2014
The Japan Foundation for United Nations University

【基本方針】【Basic Guidelines】

国連大学は、1975 年の創設以来、長い間、学者の国際的共同体として、国連及び国際機関に対するシンクタンクとしての機能を果たしてきたが、第 64 回国連総会（2009 年 12 月）で国連大学憲章が改正され、修士及び博士の学位授与機能が国連大学憲章に明記され、名実ともに高等教育研究機関としての発展を図ることとなった。そして、国連大学憲章を改正した翌年 2010 年に、東京本部施設内にあるサステナビリティと平和研究所 (UNU-ISP) を基盤とする大学院課程「サステナビリティと平和研究科」が創設され、同大学院は 2010 年 9 月に修士課程を、2012 年 9 月には博士課程を設置した。

2013 年 3 月に、第 6 代学長として就任したデイビッド・マローン学長は、発足したばかりの大学院について、より高度化した教育をめざすとともに、国際的なシンクタンクの機能を強化することを方針に掲げ、国連大学が国連及び国際社会が直面するグローバル・イシューの解決に貢献するような教育・研究の取り組みを重視する計画を打ち出し、2014 年 1 月、横浜にあった「高等研究所 (UNU-IAS)」と旧 UNU-ISP とを統合して「国連大学サステナビリティ高等研究所 (UNU-IAS)」(以下「新 UNU-IAS」という。)として再編し、日本における国連大学の活動をより焦点化する方向を打ち出した。そして、旧 UNU-ISP に設置されていた大学院課程と旧 IAS が実施していた大学院プログラムとを統合し、大学院「サステナビリティ学研究科」(以下「新 UNU-IAS 大学院」という。)として大学院教育の充実を図ることとした。

新 UNU-IAS は、「持続可能な社会」、「自然資本と生物多様性」、「地球環境の変化とレジリエンス」という分野において、先進的な研究手法と革新的なアプローチを用いて従来型の思考に挑み、新しい地球規模課題のための独創的な解決策を生み出そうとしており、新 UNU-IAS 大学院では、学際的な理解と技術スキルを備えた国際的なリーダーの育成を目指している。同研究科を修了した学生は、国連その他の国際機関や国際 NGO 並びに各地の高等教育研究機関等において、地球規模課題の解決に大きく貢献することが期待されることから、本法人は、わが国の経済界と協力して、2010 年の旧 UNU-ISP 大学院創設時以来、同大学院の学生支援のための奨学金制度の充実に努めてきた。

旧 UNU-ISP 大学院では、2014 年 6 月までに修士号取得者 33 名を輩出し、卒業生たちは国際機関の研究プロジェクトへ参加するなど、同大学院の人材育成目標にかなった活動を始めている。新 UNU-IAS 大学院の入学応募状況も 2014 年には修士課程に 144 名の応募があり、7 名を入学させ、博士課程には 82 名の応募があり 3 名を入学させるなど、国連大学の大学院教育も定着しつつある。

これらの実績は、国連大学の大学院教育に対する我が国国民の関心を一層高め、また、同大学院学生への奨学金支援体制の整備充実を目指し、さらに本法人の公益事業の活性化を図ることを志向した本法人の 2014 年度の基本方針に適うものである。

United Nations University (UNU) has been functioning as a think tank, which is composed of scholars from around the world, for the United Nations (UN) and international institutions, for a long period of time since its establishment in 1975. At the 64th UN General Assembly in December 2009, the UNU Charter was amended so as to enable UNU to grant master's and doctoral degrees. Then, UNU aimed to grow as an advanced educational and research

institution both in name and reality. In the following year 2010, UNU-ISP

Programmes were established at the Institute for Sustainability and Peace (UNU-ISP) at UNU Headquarters in Tokyo. The programmes started offering the Master's Degree Programme in September 2010 and Doctoral Degree Programme in September 2012.

In March 2013, Dr. David Malone took up the position of the 6th Rector of UNU. For the newly established postgraduate programmes, Dr. Malone held up the policy to achieve more advanced education and strengthen its function as a think tank, and he developed a plan that focused on education and research that contributes to solving global issues that the UN and international society are faced with. In January 2014, he established UNU Institute for the Advanced Study of Sustainability (UNU-IAS) (hereinafter called "new UNU-IAS") by integrating UNU Institute of Advanced Studies (UNU-IAS) in Yokohama and the former UNU-ISP, to concentrate on the activities of UNU in Japan. Then, the postgraduate programmes of the former UNU-ISP and the postgraduate courses of the former IAS were integrated to establish the UNU-IAS "Postgraduate Programmes in Sustainability" (hereinafter referred to as the "new UNU-IAS Postgraduate Programmes"), with the aim of enriching the education for postgraduate students.

The new UNU-IAS reviews conventional ideas with advanced research methods and epoch-making approaches in the fields of "sustainable society," "natural capital and biodiversity," and "global change and resilience," and aims to find original solutions to emerging global issues. The new UNU-IAS Postgraduate Programmes aim to develop international leaders who possess interdisciplinary knowledge and technical skills. The graduates from the UNU-IAS "Postgraduate Programmes in Sustainability" are expected to contribute considerably to solving global issues at the United Nations, international NGOs, other international institutions, advanced education and research institutions, etc. around the world, and so the Japan Foundation for UNU (JFUNU) has been striving to enrich the scholarship system for supporting the students of the postgraduate programmes in cooperation with the Japanese economic sector, since the establishment of the former UNU-ISP postgraduate programmes in 2010.

The Postgraduate Programmes of the former UNU-ISP produced 33 masters till June 2014, and they are engaged in activities, such as the participation in research projects of international institutions, which meet the purpose of personnel development of the postgraduate programmes. In 2014, there were 144 applicants for the enrollment in the Master's Programme of the new UNU-IAS, and 7 applicants were admitted, while there were 82 applicants for the enrollment in the Doctoral Programme, and 3 applicants were admitted. The graduate education of UNU is taking root.

These achievements will stir the interests of Japanese people in the graduate education of UNU, and comply with the policy of JFUNU for fiscal 2014, as JFUNU aimed to develop and enrich the scholarship system for supporting the students of the postgraduate programmes and energize our public projects.

【事業】【Operational Report】

I. 寄付金募集活動 [Fund-raising Activities]

国連大学の活動は、国連大学憲章に則り、人類の生存及び発展、福祉にかかる緊急に解決を要する国際的・地球規模的な課題（以下、「地球規模課題」と言う。）の解決のための教育・研究及び知識の普及を中心としている。国連大学は日本に本部組織を置く唯一の国連機関であり、国際貢献・国際親善の観点から日本国民にもなじみの深い国際機関である。しかしながら、国連大学の大学運営予算は、通常の国連予算（各国の分担金による）からの配分は全く受けず、各国政府・民間からの拠出金（任意の提供金）によって運営されている。このような状況に鑑み、本法人は、従前より、日本国民の国連大学に対する幅広い支援を確保するため寄付金募集活動を実施してきた。（各事業の募金額はP.9を参照）

1. 国連大学大学院「サステナビリティ学研究科」奨学支援募金活動（継続事業） [Supportive Fundraising Activities for the UNU-IAS Postgraduate Programmes] (On-going Mission)

2010年に国連大学本部（東京）施設内にあるサステナビリティと平和研究所（旧 UNU-ISP）に設置された大学院「サステナビリティと平和研究科」が創設された。本法人は、この大学院創設の意義に鑑み、2010年秋、我が国経済界と協力して、この大学院に世界各国から集う学生、特に開発途上国の学生の修学上の支援を行うため、新たな賛助会員制度「国連大学大学院サステナビリティ学研究科奨学助成賛助会員（「jfScholarship for UNU 賛助会員」）」をスタートさせた。

2014年1月、国連大学は、旧 UNU-ISP と横浜にあった高等研究所（旧 UNU-IAS）を統合して「国連大学サステナビリティ高等研究所」（新 UNU-IAS）として再編した。これに伴い、大学院機能も統合し新 UNU-IAS に新大学院課程「サステナビリティ学研究科」として新たな出発をした。

この事業は、国連大学における大学院教育機能の重要性に鑑み、この奨学支援事業を新 UNU-IAS 大学院にも、継続事業として実施することとしたものである。この大学院は、国際社会が直面している地球規模課題について、「持続可能な社会」、「自然資本と生物多様性」、「地球環境の変化とレジリエンス」という観点から、高度かつ専門的な立場で取り組む有為の人材の養成を目的としている。また、この大学院は、アフリカのガーナにある天然資源研究所（UNU-INRA）と連携してアフリカにおける教育にも力を注いでいる。さらに、2013年より日本の有力大学である東京大学と大学院共同プログラムを開始するなど、日本国内の大学院との協力関係を強めている。現在では、大学院入学者の数も増加し、かつ学年進行とともに奨学金を必要とする学生の需要も高まった。学生への奨学助成は、安定的、継続的に助成することが必要であり、従来に引き続きこの賛助会員による支援を行うため会員募集の活動を行った。賛助会員の募集にあたっては、産業界との連携を強化し、企業団体等に広く協力を求めるとともに、一般国民にも幅広く jfScholarship for UNU 賛助会員への参加を呼びかけた。2014年度において本法人が受け入れた個人及び法人・団体からの当該寄付金の総額は 10,050,000 円であり、個人 5 件、法人 14 件であった。

2. 一般寄付金（継続事業） [General Donation] (On-going Mission)

従来から継続的に実施している寄付金募集活動で、国連大学の実施する教育研究プロジェクト等への助成及び本法人の広報・普及活動等への支援を目的に、任意の時期に任意の寄付金を広く国民から受け入れる募金活動である。

なお、この一般寄付金においては、国連大学のサステナビリティ高等研究所の特定プロジェクトほか、寄付者の意思によって任意の事項を指定して寄付することができるものである。募金にあたっては、企業団体等をはじめ一般国民にも幅広く協力を呼びかけた。

2014 年度において本法人が受け入れた個人及び法人・団体からの一般寄付金の総額は 15,500,000 円であり、個人 1 件、法人 1 件であった。

3. 一般賛助会費（継続事業） [Dues from Supporting Members] (On-going Mission)

国連大学の行う教育研究活動全般及び本法人の行う活動を継続的・安定的に支援するために、従来から実施している「賛助会費」による寄付金募集は極めて重要であり、募金活動を積極的に行った。2014 年度において、賛助会費収入の合計は 585,000 円であり、会員種別による内訳は個人会員 28 件、法人会員 3 件であった。

II. 国連大学の活動及び地球規模課題解決に係る広報・キャンペーン

[Publicity Work and Campaign related to UNU's Activities and Solution of Global Issues]

国民の各界各層に、緊急の地球規模課題を解決することが人類の平和と発展に不可欠であることを周知させるとともに、その課題解決に取り組む国連大学及び本法人の活動に対し、幅広く理解と関心を高め、人々や企業から支持が得られるよう、広報・キャンペーンを行った。特に、2014 年度は前年度に引き続き、高等教育機関としてさらに充実した活動をしてきた国連大学大学院の大学院生たちの動向を伝え、同大学院の意義や国際貢献への期待について、広報活動を展開した。

1. 広報資料の作成（継続事業） [Making public relations materials] (On-going Mission)

(1) ニュースレターの発行 (Issuing newsletters)

国連大学の研究者や短期コース受講生へのインタビューを掲載するなど、国連大学を国民に身近に感じてもらえるよう編集内容に工夫を凝らしてきたが、大学院の設置に伴いカリキュラム内容や大学院生の生活ぶりなど、よりいっそう具体的に教育活動の様子を国民に伝えた。

(2) 各種パンフレットの発行等 (Various kinds of pamphlets, etc.)

国連大学と本法人の活動内容をより具体的に伝えるよう、各種パンフレットを制作・改定し、賛助会員や企業関係者を中心として幅広く頒布し、国連大学と本法人の活動に関わる情報提供と広報に努めた。

2. インターネットによるキャンペーン（継続事業） [Campaigns through Internet, etc.] (On-going Mission)

(1) ウェブサイトの拡充 (Enrichment of our Website)

インターネットによる広報展開をさらに拡充し、イベント情報の積極的な告知やニュースレターの記事転載を行うとともに、UNU ウェブサイトとの連携を図りながら、国連大学とその活動内容をより広範に紹介した。

(2) メールマガジンの配信 (Delivery of the e-magazine, etc.)

賛助会員や本法人へのコンタクトを希望する人々に、国連大学及び本法人のイベント案内を中心に機動的な広報を展開した。

3. レクチャーシリーズの発刊（継続事業） [Publication of jfUNU Lecture Series] (On-going Mission)

国連大学および本法人の活動の一端を紹介し、世界の緊急課題についてより多くの人々に知ってもらい、その解決に役立てるため、地球規模課題解決のためのシンポジウムの内容を一般の人々に解説する導入書として「レクチャーシリーズ」を発刊してきた。2014年度は、2012年11月に実施したジュニア・フェロー・シンポジウム2012の内容を編集・収録し『環境と平和——より包括的なサステナビリティを目指して』（シリーズ9）として刊行した。

Ⅲ. 地球規模課題解決に関する知識普及のための講演会・セミナー・シンポジウム等 [Lectures, Seminars, and Symposiums to Disseminate Knowledge regarding Solutions of the Global Issues]

国連大学への国民の支持を高め、国民各界各層に国連大学の取り組む地球規模課題についての知識の普及と理解の増進を図るため、国連大学と共催で、人類の生存や福祉、発展に関わる地球規模課題解決のための講演会やセミナー・シンポジウムを開催してきたが、2014年度は、実施しなかった。

Ⅳ. 国連大学への助成活動 [Support Activities for United Nations University]

国連大学の主たる活動は、緊急の地球規模課題解決を図ることを目的として、研究所を主体として進める研究活動と大学院または短期コースにおける教育活動である。この事業では、国連大学の研究活動及び教育活動の推進が、人類の発展と平和に重要な貢献を果たす観点から、国連大学の研究活動及び教育活動並びに教育研究環境整備に対して助成を行った。国連大学への助成に当たっては、国連大学が真に必要なとする分野の活動について、事前に国連大学関係者との連絡調整のもとに助成対象事業などを検討するとともに、具体的助成事業の選定・助成額などについては、本法人の「助成諮問委員会」の審議を経て行った。（各事業への助成額はP.9を参照）

1. 研究活動への助成 [Support for UNU Research Activities]

国連大学の研究活動は、緊急の地球規模課題解決のために、世界的なネットワークによって実施され、その成果は国連機関や各国の関係者等に対し、提言や解決方法を提示して還元される。この事業は、このような国連大学の研究活動の重要性に鑑み、それらの研究活動への

助成を行った。

(1) UNU-IAS : アジアにおける残留性有機汚染物質のモニタリングと管理プロジェクト
(継続事業)

[UNU-IAS: Monitoring and Management of POPs in Asia](On-going Mission)

日本、中国、韓国、ベトナム、フィリピン、マレーシア、タイ、シンガポール、インドネシア、インド、パキスタン等の沿岸水圏（海水、河川水、湖沼）の汚染を防止するため、各国の公的機関や大学の環境汚染化学物質の分析能力向上を目指して行う調査・研究に対し、助成を行った。同事業は、ストックホルム条約の対象物質として指定される可能性の高いPFOSやPFOAなどの有機フッ素化合物（PFCs）に焦点を当て、残留性有機汚染物質の検査技術の向上を図り、アジア水圏の良好な環境管理を目指している。

(2) UNU-IAS : 開発途上地域における持続可能な開発戦略策定に資する研究（新規事業）

[UNU-IAS: Research on Formulating Strategy for Sustainability in Developing Countries] (New Mission)

開発途上地域における持続可能な開発戦略策定のための実施調査にかかるIAS研究者の旅費の一部を補助するために助成を行った。

(3) UNU-CPR: 変わりゆく世界での国連平和維持活動（新規事業）

[UNU-CPR: UN Peacekeeping in a Changing World] (New Mission)

国連大学は、2014年秋に本部施設内に「国連大学政策研究センター UNU Center for Policy Research (UNU-CPR)」を創設した。UNU-CPRは、国連大学システムとそれを超えた幅広い機関の研究を踏まえて、平和、国際安全保障、世界開発といった問題に関して政策研究を行うことを目的としている。本法人は、UNU-CPRの活動を積極的に支援することとし、本件プロジェクトに助成した。このプロジェクトは、2014年6月に国連事務総長が国連の平和活動についてのレビューを行うと発表したことを受け、そのレビューを行うものであるが、既存の実証を基に体系的に分析を行い、独自の研究に取り組み、専門家との対話を行い、国連平和活動が新しい需要に適応し、紛争の性質の変化に対処するうえで助けとなる明確な見識と提言を提供するための事業である。

2. 教育活動への助成 [Support for UNU Educational Activities]

国連大学の教育活動は、緊急で世界的・地球規模的課題の解決に従事するための高度かつ専門的な若手人材の育成を目的とする大学院レベルの教育である。学生たちは、これら国連大学の行う教育を修了後、それぞれの専門を生かして、世界の緊急課題の現場や学術機関において即戦力として貢献することが期待される。本法人では、このことの重要性に鑑み、新 UNU-IAS 大学院の学生の修学を支援するための奨学助成及び新 UNU-IAS の実施する短期研修事業等への助成を行った。

(1) UNU-IAS 大学院「サステナビリティ学研究科」の学生奨学経費助成（継続事業）

[UNU-IAS: Scholarship Grants for UNU-IAS Postgraduate Programmes]
(On-going Mission)

この助成事業は、正規の学位授与機能（修士・博士）をもつ大学院研究科の学生たちが、

長い場合には 5 年以上にわたり日本に滞在しながら、学位論文作成のための勉学と研究活動に専念できるような生活環境を提供することを目的としている。助成の内容は、学生の生活費を中心とした補助である。特に開発途上国からの学生への支援を重視する。2014 年度は「jfScholarship for UNU 賛助会員」制度に基づく賛助会員企業からの寄付金を元に、修士課程の学生 4 名、博士課程の学生 5 名の合計 9 名に奨学助成を行った。

(2) **UNU-IAS の実施する短期研修への助成 [Support for Short-term Seminar by UNU-IAS]**
国連大学グローバル・セミナー（継続事業）

[UNU Global Seminars] (On-going Mission)

国連大学が行っている研修事業のうちもっとも歴史が長く、多くの修了生が国連や国際機関、教育機関に従事している実績を持つ事業である。短期研修（4 日間）であるが、毎年、幅広い観点から、国際平和と環境・開発の問題を取り上げてきた。また、同セミナーには、日本の若者も多く参加することから、本法人としては、従前より強力に支援してきた。2014 年度も引き続き「グローバル・セミナー湘南セッション」に助成した。

3. **国連大学の教育研究環境整備のための助成**

[Support for Maintaining Educational and Research Environment UNU]

国連大学の学生や研究者等が、安心して学習・研究に専念できる環境を維持することが、人類の生存や福祉、発展に関する緊急で地球規模課題の解決を推進する上で重要であることに鑑み、国連大学の教育・研究活動上の環境整備に対して助成した。

(1) **国連大学本部における教育研究のための施設整備費（継続）**

[Maintenance of UNU Centre Facilities] (On-going Mission)

(2) **国連大学図書館の蔵書購入費（継続）**

[UNU Library Book Procurement Fund] (On-going Mission)

V. **地球規模課題解決のための研究及び社会の取り組みについての調査・研究**

[Research of Solutions on the Global Issues and Research and Study on the Society's Address]

緊急で地球規模課題の解決に対して、広く国民の理解と認識を得るためには、今日における地球課題解決に係る社会の取り組み、大学等における教育・研究の動向を十分把握していることが重要である。2014 年度は、2013 年度に引き続き、我が国社会におけるサステイナビリティに関する取り組み及びサステイナビリティ・サイエンスに係る取り組み状況について、資料収集を行った。

VI. **国際相互理解の促進等に関する事業**

[Missions related to Promotion of International and Mutual Understanding]

緊急で地球規模課題の解決には、それを醸成する国際相互理解の促進がなされていることが不可欠である。本法人が国連大学の諸活動を支援・協力するに当たっては、国連大学本部が日本国内に設置されていることの強みを活かし、国連大学の諸活動に参加する世界各国の人々に、日本理解を含む国際相互理解の促進に資する機会を提供する事業を行った。

(1) 日本文化体験事業（継続事業）

[Mission of Japanese Culture Experience] (On-going Mission)

UNU-IAS の大学院生とフェローを対象として、日本文化に接する機会を提供するため、6月に歌舞伎見学プログラムを企画・実施した。

(2) 我が国の先端研究等の見学（継続事業）

[Advanced Research Center Tour] (On-going Mission)

UNU-IAS の大学院生とフェローを対象として、我が国の先端研究の一端に触れる機会として、従来は、大手企業の先端工場見学を実施してきたが、本年度は、先端研究の実態を体験的に理解するための機会提供として、11月に筑波大学サイバニクス研究センターおよび宇宙航空研究開発機構（JAXA）筑波宇宙センターの見学プログラムを企画・実施した。

Ⅶ. 本法人の管理運営活動 [Management and Operational Activities of jfUNU]

公益財団法人への移行後、丸4年経過し、本法人の諸活動は、公益目的事業・法人管理運営事業ともに、事業活動の定着化を見ている。法人の管理運営体制については、評議員会・理事会・常任理事会・公益事業に関する委員会・執行理事の権限などの役割分担を明確にし、公益法人としての社会的責任を果たしているところである。その際、次の点について、前年度に引き続き特に意を用いた。

- ① 公益法人における、区分会計処理の徹底
- ② 公益法人における、公益目的保有財産管理の適正化
- ③ 基本財産及び特定基金等の資産運営の適正化

なお、社会の経済活動の低迷状況を反映し、寄付金募金活動は厳しい状況が続いている。

<公益財団法人国連大学協力会 2014 年度事業報告 附属明細書>

2014 年度 寄付金収入及び国連大学への助成実績一覧

<FY2014 Operational Report Annex>

FY2014 List of Donations and Other Support for UNU

寄 付 金 収 入 (Donations and Dues)		金 額(¥)
国連大学大学院「サステイナビリティ学 研究科」支援 募金 (指定寄付)	個人会員 5 人 5 件 (¥50,000) 法人会員 14 法人 14 件 (五十音順) (¥10,000,000) 旭硝子株式会社 (¥500,000) アメリカンファミリー生命保険会社 (¥500,000) キッコーマン株式会社 (¥500,000) 株式会社島津製作所 (¥500,000) 昭和シェル石油株式会社 (¥500,000) 住友化学株式会社 (¥2,000,000) トヨタ自動車株式会社 (¥2,000,000) 東レ株式会社 (¥500,000) DOWA ホールディングス株式会社 (¥500,000) 日本電子株式会社 (¥500,000) 株式会社三井住友銀行 (¥500,000) 株式会社三菱東京 UFJ 銀行 (¥500,000) 株式会社リコー (¥500,000) YKK 株式会社 (¥500,000)	10,050,000 円
一般募金 (指定寄付)	UNU-IAS:アジアにおける残留性有機汚染物質のモニタリングと管理プロジェクト 法人 1 法人 1 件 (¥14,500,000) 株式会社島津製作所 (¥14,500,000)	14,500,000 円
一般募金	本法人への寄付 個人 1 人 1 件 (¥1,000,000)	1,000,000 円
一般賛助会費	個人会員 28 人 28 件 (¥285,000) 法人会員 3 法人 3 件 (五十音順) (¥300,000) 株式会社クイックリサーチ (¥100,000) 有限会社国大協サービス (¥100,000) 栄通信工業株式会社 (¥100,000)	585,000 円
合計額 :		26,135,000 円
国 連 大 学 へ の 助 成 (Grant-in-aids for UNU)		金 額 (¥)
・ UNU-IAS : アジアにおける残留性有機汚染物質のモニタリングと管理プロジェクトに対する助成 UNU-IAS:Monitoring and Management of POPs in Asia		14,250,000 円
・ UNU-IAS : 開発途上地域における持続可能な開発戦略策定に資する研究に対する助成 UNU-IAS: Research on Formulating Strategy for Sustainability in Developing Countries		1,000,000 円
・ UNU-CPR: 変わりゆく世界での国連平和維持活動に対する助成 UNU-CPR: UN Peacekeeping in a Changing World		1,000,000 円
・ UNU-IAS 大学院「サステイナビリティ学研究科」の学生奨学経費助成 UNU-IAS Scholarship Grants for UNU-IAS Postgraduate Programmes		16,050,000 円
・ UNU-IAS: 国連大学グローバル・セミナー湘南セッションに対する助成 UNU Global Seminars - Shonan Session		600,000 円
・ 国連大学本部における教育研究のための施設整備費 Maintenance of UNU Centre Facilities		5,000,000 円
・ 国連大学図書館の蔵書購入費 UNU Library Book Procurement Fund		50,000 円
合計額 :		37,950,000 円